

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6324364号  
(P6324364)

(45) 発行日 平成30年5月16日(2018.5.16)

(24) 登録日 平成30年4月20日(2018.4.20)

(51) Int.Cl.

H 0 1 R 13/58 (2006.01)

F 1

H 0 1 R 13/58

請求項の数 4 (全 16 頁)

(21) 出願番号 特願2015-241790 (P2015-241790)  
 (22) 出願日 平成27年12月11日(2015.12.11)  
 (65) 公開番号 特開2017-107783 (P2017-107783A)  
 (43) 公開日 平成29年6月15日(2017.6.15)  
 審査請求日 平成29年3月16日(2017.3.16)

(73) 特許権者 000006895  
 矢崎総業株式会社  
 東京都港区三田1丁目4番28号  
 (73) 特許権者 000100768  
 アイシン・エイ・ダブリュ株式会社  
 愛知県安城市藤井町高根10番地  
 (74) 代理人 100097113  
 弁理士 堀 城之  
 (74) 代理人 100162363  
 弁理士 前島 幸彦  
 (72) 発明者 佐藤 旭  
 静岡県牧之原市布引原206-1 矢崎部  
 品株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 コネクタのワイヤカバー

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

ワイヤの先端に圧着端子を具備するコネクタ端子が挿入されるコネクタに装着され、前記ワイヤのワイヤ引き出し方向を規制する、コネクタのワイヤカバーであって、

前記コネクタに装着された際、前記コネクタに対向する開口したコネクタ対向開口面および前記ワイヤ引き出し方向になる開口したワイヤ引き出し方向開口面と、

前記コネクタ対向開口面に対向したフード天面と、

前記フード天面の前記ワイヤ引き出し方向に略平行なフード第1稜線およびフード第2稜線にそれぞれ連続し、前記ワイヤ引き出し方向に略平行なフード第1側面およびフード第2側面とを有し、

前記フード第1側面には、前記ワイヤ引き出し開口面側のフード第1側面先端縁から所定の位置に、前記コネクタ対向開口面側のフード第1側面から前記フード第1稜線に向かったフード側面切欠溝が形成され、

前記フード第2側面における前記ワイヤ引き出し開口面寄りの所定の範囲が欠損して、フード側面欠損部分が形成され、

前記フード天面における前記ワイヤ引き出し開口面寄りで前記フード第2側面寄りの所定の範囲が欠損して、前記フード側面欠損部分に連続したフード天面欠損部分が形成されていることを特徴とするコネクタのワイヤカバー。

【請求項2】

前記フード天面の前記コネクタ対向開口面とは反対側の面には、前記ワイヤ引き出し開

口面側のフード天板先端縁から所定の位置に、前記フード天面先端縁に平行なフード天面リブが形成されていることを特徴とする請求項１記載のコネクタのワイヤカバー。

【請求項３】

前記フード天面の前記ワイヤ引き出し開口面側のフード天面先端縁から所定の幅の範囲が前記フード側面欠損部分に向かって延長され、前記フード天面欠損部分に前記フード側面欠損部分に向かったフード天面切欠溝が形成されていることを特徴とする請求項１記載のコネクタのワイヤカバー。

【請求項４】

可撓性を具備するバンド部と、前記バンド部が抜け出し不可能に貫通する結束孔を具備するヘッド部とを有する結束バンドの前記バンド部が、前記フード側面切欠溝に案内され  
ると共に、前記フード側面欠損部分および前記フード天面欠損部分を通過し、かつ、前記  
ヘッド部が前記フード第１側面の前記フード側面切欠溝の周囲に当接することを特徴と  
する請求項１～３の何れか一項に記載のコネクタのワイヤカバー。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明はコネクタのワイヤカバー、特に、コネクタに装着され、コネクタから引き出されるワイヤの引き出し方向を規制するコネクタのワイヤカバーに関する。

【背景技術】

【０００２】

従来、コネクタから引き出される電線（「ワイヤ」に同じ）の引き出し方向を規制する電線カバー（「ワイヤカバー」に同じ）として、電線カバーの電線導出口の孔縁部から断面略門形の電線固定部を突設させ、電線固定部には、電線を束ねる結束バンドが挿通可能な挿通孔を一对設けた発明が開示されている（例えば、特許文献１参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００３】

【特許文献１】特開平２００２－３４３４９７号公報（第２－３頁、図１）

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００４】

特許文献１に開示された発明は、電線の本数や外径に応じて、結束バンドの巻回経路、すなわち結束バンドが通過する挿通孔を適宜選択することができるため、引き出される電線の本数や外径に応じて選択された挿通孔を通過した結束バンドは、電線の本数や外径に応じて、電線を固定部に固定することができる。

しかしながら、バンド部とバンド部が抜け出し不可能に貫通するバンド結束孔を具備するヘッド部とを有する結束バンドを結束する際、バンド部を挿通孔に挿通すると共に、バンド部をバンド結束孔に挿入する必要があるため、取り付ける作業が煩雑であるという問題があった。

また、結束バンドを結束する際、すなわち、バンド部をバンド結束孔に挿入して締め上げる際、ヘッド部を押し当てる部位がないため、結束作業が不安定になり、結束バンドを結束する作業性が悪いという問題と共に、結束バンドの締め上げが不十分な場合には、電線を電線固定部に確実に固定することができないという問題があった。

【０００５】

本発明は、このような状況に鑑みてなされたものであり、結束バンドを容易かつ安定して結束することを可能にし、結束バンドの締め上げを十分にして、電線を電線カバーに確実に固定することができる、コネクタのワイヤカバーを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

本発明に係るコネクタのワイヤカバーは、ワイヤの先端に圧着端子を具備するコネクタ

10

20

30

40

50

端子が挿入されるコネクタに装着され、前記ワイヤのワイヤ引き出し方向を規制する、コネクタのワイヤカバーであって、

前記コネクタに装着された際、前記コネクタに対向する開口したコネクタ対向開口面および前記ワイヤ引き出し方向になる開口したワイヤ引き出し方向開口面と、

前記コネクタ対向開口面に対向したフード天面と、

前記フード天面の前記ワイヤ引き出し方向に略平行なフード第1稜線およびフード第2稜線にそれぞれ連続し、前記ワイヤ引き出し方向に略平行なフード第1側面およびフード第2側面とを有し、

前記フード第1側面には、前記ワイヤ引き出し開口面側のフード第1側面先端縁から所定の位置に、前記コネクタ対向開口面側のフード第1側面から前記フード第1稜線に向かったフード側面切欠溝が形成され、

前記フード第2側面における前記ワイヤ引き出し開口面寄りの所定の範囲が欠損して、フード側面欠損部分が形成され、

前記フード天面における前記ワイヤ引き出し開口面寄りで前記フード第2側面寄りの所定の範囲が欠損して、前記フード側面欠損部分に連続したフード天面欠損部分が形成されていることを特徴とする。

#### 【0007】

また、本発明に係るコネクタのワイヤカバーは、前記フード天面の前記コネクタ対向開口面とは反対側の面に、前記ワイヤ引き出し開口面側のフード天板先端縁から所定の位置に、前記フード天面先端縁に平行なフード天面リブが形成されていることを特徴とする。

#### 【0008】

また、本発明に係るコネクタのワイヤカバーは、前記フード天面の前記ワイヤ引き出し開口面側のフード天面先端縁から所定の幅の範囲が前記フード側面欠損部分に向かって延長され、前記フード天面欠損部分に前記フード側面欠損部分に向かったフード天面切欠溝が形成されていることを特徴とする。

#### 【0009】

さらに、本発明に係るコネクタのワイヤカバーは、可撓性を具備するバンド部と、前記バンド部が抜け出し不可能に貫通する結束孔を具備するヘッド部とを有する結束バンドの前記バンド部が、前記フード側面切欠溝に案内されると共に、前記フード側面欠損部分および前記フード天面欠損部分を通過し、かつ、前記ヘッド部が前記フード第1側面の前記フード側面切欠溝の周囲に当接することを特徴とする。

#### 【発明の効果】

#### 【0010】

(a) 本発明によれば、バンド部およびヘッド部を具備する結束バンドは、バンド部の一部がフード側面切欠溝に案内され、フード側面欠損部分およびフード天面欠損部分を通過した状態で、コネクタに取り付けられるため、取り付けが容易で、結束バンドの取り付け作業が迅速になる。

(b) また、ヘッド部をフード第1側面のフード側面切欠溝の周囲に押し当てて、バンド部を締め上げることが可能になる。したがって、結束バンドのズレが防止され、結束バンドの締め上げ作業は安定になり、十分に締め上げられた結束バンドによってワイヤはワイヤカバーに確実に固定される。

(c) また、バンド部は可撓性を有し、フード側面切欠溝、フード側面欠損部分およびフード天面欠損部分を通過してワイヤに直接当接するから、引き出されるワイヤの本数に左右されることなく、ワイヤは結束バンドによってワイヤカバーに確実に固定される。

(d) さらに、結束バンドのバンド部はフード側面欠損部分およびフード天面欠損部分を通過するから、結束バンドのバンド部はフード第1側面寄りの位置に納まって、フード第2側面からフード第1側面とは反対の方向に突出することがない。したがって、フード第2側面に沿って、突出した物のない空間が形成される。

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【0011】

10

20

30

40

50

【図１】本発明の実施の形態１に係るコネクタのワイヤカバーを説明するものであって、装着対象となる部材（コネクタ等）を分離して示す斜視図である。

【図２】本発明の実施の形態１に係るコネクタのワイヤカバーを説明するものであって、装着対象となる部材（コネクタ等）への装着状況を説明する斜視図である。

【図３】本発明の実施の形態１に係るコネクタのワイヤカバーを説明する平面図である。

【図４】本発明の実施の形態１に係るコネクタのワイヤカバーを説明する正面図である。

【図５】本発明の実施の形態１に係るコネクタのワイヤカバーを説明する側面図である。

【図６】本発明の実施の形態１に係るコネクタのワイヤカバーを説明する斜視図である。

【図７】本発明の実施の形態１に係るコネクタのワイヤカバーを説明する一部を拡大して示す斜視図である。

10

【図８】本発明の実施の形態１に係るコネクタのワイヤカバーを説明するものであって、取り付けられる結束バンドを示す斜視図である。

【図９】本発明の実施の形態１に係るコネクタのワイヤカバーを説明するものであって、結束バンドの取り付け状態を示す平面図である。

【図１０】本発明の実施の形態１に係るコネクタのワイヤカバーを説明するものであって、結束バンドの取り付け状態を示す側面図である。

【図１１】本発明の実施の形態１に係るコネクタのワイヤカバーを説明するものであって、結束バンドの取り付け状態を示す一部を拡大した斜視図である。

【図１２】本発明の実施の形態１に係るコネクタのワイヤカバーを説明するものであって、結束バンドの取り付け状態（３０極）における一部を拡大して示す正面図である。

20

【図１３】本発明の実施の形態１に係るコネクタのワイヤカバーを説明するものであって、結束バンドの取り付け状態（４１極）における一部を拡大して示す正面図である。

【図１４】本発明の実施の形態１に係るコネクタのワイヤカバーを説明するものであって、使用状態を示す平面図である。

【図１５】本発明の実施の形態１に係るコネクタのワイヤカバーを説明するものであって、使用状態を示す側面図である。

【図１６】本発明の実施の形態１に係るコネクタのワイヤカバーを説明するものであって、使用状態を示す斜視図である。

【図１７】本発明の実施の形態２に係るコネクタのワイヤカバーを説明する平面図である。

30

【図１８】本発明の実施の形態２に係るコネクタのワイヤカバーの変形例を説明する斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【００１２】

〔実施の形態１〕

以下、発明を実施するための形態（以下「実施の形態１」と称す）を、図面を参照しつつ説明する。なお、本発明は図示された形態に限定されるものではない。また、図面の煩雑さを避けるため、一部の部位の記載あるいは一部の符号の記載を省略する場合がある。

【００１３】

（コネクタ）

40

図１および図２は本発明の実施の形態１に係るコネクタのワイヤカバーを説明するものであって、図１は装着対象となる部材（コネクタ等）を分離して示す斜視図、図２は装着対象となる部材（コネクタ等）への装着状況を説明する斜視図である。

図１および図２において、コネクタのワイヤカバー（以下「ワイヤカバー」と称す）１００は、コネクタ３００に装着される。

コネクタ３００は、メスコネクタハウジング３１０と、メスコネクタハウジング３１０を収納したオスコネクタハウジング３２０とからなる。

メスコネクタハウジング３１０にはコネクタ端子２００が挿入される。

コネクタ端子２００は、ワイヤ２１０とワイヤ２１０の先端に設置された圧着端子２２０とを具備し、コネクタ端子２００のワイヤ２１０の引き出し方向（太い矢印にて示す。

50

以下「ワイヤ引き出し方向」と称す) 101は、ワイヤカバー100によって規制される。

【0014】

以下の説明の便宜上、コネクタ端子200のメスコネクタハウジング310への挿入方向(太い矢印にて示す。以下「コネクタ端子挿入方向」と称す)201の反対方向、すなわち、メスコネクタハウジング310のオスコネクタハウジング320への挿入方向(太い矢印にて示す。以下「ハウジング挿入方向」と称す)301の反対方向を「Y方向」と称す。

また、ワイヤ引き出し方向101の反対方向を「Z方向」と称し、Y方向およびZ方向に垂直な方向を「X方向」と称す。なお、ワイヤ引き出し方向101はワイヤカバー100のメスコネクタハウジング310への装着方向に同じである。

10

【0015】

(メスコネクタハウジング)

メスコネクタハウジング310は略直方体であって、複数のコネクタ端子収納室312が設けられ、それぞれにコネクタ端子200に挿入される。そして、対向する一对の外表面(X方向の面および-X方向の面)にそれぞれ、突出した位置決め突起311が形成され、位置決め突起311が形成されていない外表面(Z方向の面)に、進退可能に突出した係止突起313が形成されている。

【0016】

(オスコネクタハウジング)

20

オスコネクタハウジング320は外表面に突出した鐳状のオスコネクタフランジ325を具備する略円筒体であって、メスコネクタハウジング310を収納する収納部(図示しない)を具備している。

そして、外表面の対向する位置(X方向の位置および-X方向の位置)にそれぞれ、メスコネクタハウジング310の位置決め突起311が侵入する位置決め溝321が形成され、位置決め溝321を結ぶ仮想線に垂直な位置(Z方向の位置)に、メスコネクタハウジング310の係止突起313に係止する係止孔323が形成されている。

【0017】

(ワイヤカバー)

図3~図7は本発明の実施の形態1に係るコネクタのワイヤカバーを説明するものであって、図3は平面図、図4は正面図、図5は側面図、図6は斜視図、図7は一部を拡大して示す斜視図である。なお、説明の便宜上、図1において定義した装着時の方向(X方向、Y方向、Z方向)を付記する。

30

図1~図7において、ワイヤカバー100は、フード110と、フード110に連続したカバーフランジ120と、カバーフランジ120に設けられたカバー係止部130とを具備している。以下、それぞれについて説明する。

【0018】

(フード)

フード110は、開口したコネクタ対向開口面50(-Y方向の面に同じ)および開口したワイヤ引き出し開口面60(-Z方向の面に同じ)を具備する略箱状であって、フード110がコネクタ300に装着された際、コネクタ対向開口面50はオスコネクタハウジング320に対向し、ワイヤ引き出し開口面60からワイヤ引き出し方向101に向けてワイヤ210が引き出される(図10参照)。

40

そして、フード110はコネクタ対向開口面50に対向したフード天面30(Y方向の面に同じ)を具備している。フード天面30は、ワイヤ引き出し方向101に平行な断面略円弧状のフード第1稜線31およびフード第2稜線32と、ワイヤ引き出し方向101に垂直な断面略円弧状のフード後稜線34と、ワイヤ引き出し開口面60側のフード天面先端縁36とを具備する略矩形状である。

【0019】

また、フード110は、フード第1稜線31およびフード第2稜線32にそれぞれ滑ら

50

かに連続し、ワイヤ引き出し方向 101 に平行な (Y-Z 面に平行な) フード第 1 側面 10 およびフード第 2 側面 20 と、フード後稜線 34、フード第 1 側面 10 およびフード第 2 側面 20 に滑らかに連続し、コネクタ対向開口面 50 から離れる程、ワイヤ引き出し開口面 60 に近づくように傾斜したフード後斜面 40 とを具備している。

そして、後記するフード側面切欠溝 70 がフード第 1 側面 10 に形成され、後記するフード欠損面 80 がフード第 2 側面 20 とフード天面 30 とに跨がって形成されているため、フード 110 の形状は非対称になっている。

なお、以上は、フード天面 30 がコネクタ対向開口面 50 に平行な平板状で、フード天面 30 等にフード後斜面 40 が連続しているが、本発明はこれに限定されるものではない。例えば、フード 110 がフード後斜面 40 やフード天面リブ 90 を具備しなくてもよい。あるいは、フード天面 30 がアーチ状 (円筒または円錐台の一部) であったり、フード天面 30 がコネクタ対向開口面 50 に対して平行でなかったりしてもよい。

#### 【0020】

(フード側面切欠溝)

フード第 1 側面 10 には、ワイヤ引き出し開口面 60 側の端縁 (フード天面先端縁 36 と同じ面内に位置している面に同じ。以下「フード第 1 側面先端縁」と称す。) 16 からフード後斜面 40 方向 (Z 方向) に距離 A の位置から幅 B で、コネクタ対向開口面 50 側の側縁 (以下「フード第 1 側面側縁」と称す) 15 からフード第 1 稜線 31 に向かって (Y 方向に向かって) 深さ C である矩形状のフード側面切欠溝 70 が形成されている。

なお、フード側面切欠溝 70 は、後記する結束バンド 400 を構成するバンド部 410 が通過可能で結束バンド 400 を構成するヘッド部 420 が通過不可能な大きさになっている (図 8 参照)。

#### 【0021】

(フード欠損面)

フード第 2 側面 20 のワイヤ引き出し開口面 60 寄りの距離 D の範囲が欠損し、フード側面欠損部分 (図 3 および図 6 において二点鎖線にて模式的に示す) 82 が形成されている。

すなわち、フード第 2 側面 20 のフード側面欠損部分 82 側の端縁 (ワイヤ引き出し開口面 60 側の端縁に同じ。以下「フード第 2 側面欠損端縁」と称す) 28 は、ワイヤ引き出し開口面 60 にはなく、フード天面先端縁 36 (フード第 1 側面先端縁 16 に同じ) よりもフード後斜面 40 に近い位置にある。

#### 【0022】

また、フード天面 30 には、フード天面先端縁 36 から Z 方向に距離 D で、フード第 2 側面 20 から X 方向に距離 E の範囲が欠損し、フード天面欠損部分 (図 3 および図 6 において二点鎖線にて模式的に示す) 83 が形成されている。

そして、フード天面先端縁 36 に平行なフード天面欠損部分 83 を形成する端縁を「フード天面欠損端縁 38」と、フード天面先端縁 36 に垂直なフード天面欠損部分 83 を形成する側縁を「フード天面欠損側縁 39」と称する。なお、フード天面欠損側縁 39 はフード第 2 稜線 32 に位置する場合がある。

すなわち、フード天面欠損部分 83 とフード側面欠損部分 82 とは連続していて、両者によってフード欠損面 80 が形成されている。

このとき、フード欠損面 80 の Z 方向の距離 D は、フード側面切欠溝 70 のフード第 1 側面先端縁 16 からの距離に相当する距離 A と幅 B の和に同じ ( $D = A + B$ ) あるいは該和よりもわずかに大きく ( $D > (A + B)$ ) になっている。また、フード欠損面 80 の X 方向の距離 E は、後記する結束バンド 400 を構成するバンド部 410 の厚さ T (図 8 参照) よりも大きくなっている ( $E > T$ )。

#### 【0023】

(フード天面リブ)

また、フード天面 30 のコネクタ対向開口面 50 とは反対側の面 (Y 方向の面) に、フード天面先端縁 36 に平行なフード天面リブ 90 が設けられている。このとき、フード天

10

20

30

40

50

面リブ90は、互いに平行に配置されたフード天面先端縁36側の先寄りフード天面リブ91とフード後稜線34側の後寄りフード天面リブ92とによって構成されている。

そして、先寄りフード天面リブ91の後寄りフード天面リブ92に対向した面のフード天面先端縁36からY方向の距離Fは、距離Aに略同じ( $F \approx A$ )で、先寄りフード天面リブ91と後寄りフード天面リブ92との互に対向する面同士の間隔(Y方向の距離)Gは幅Bに略同じ( $G \approx B$ )になっている。したがって、後記する結束バンド400を構成するバンド部410(図8参照)は、フード側面切欠溝70に侵入して、フード天面先端縁36に平行な状態で、先寄りフード天面リブ91と後寄りフード天面リブ92とに挟まれた範囲に案内され、さらに、フード欠損面80を通過することになる。

なお、本発明におけるフード天面リブ90は、先寄りフード天面リブ91および後寄りフード天面リブ92の両方を具備するものに限定されるものではなく、何れか一方を具備するものであってもよい。さらに、バンド部410はフード側面切欠溝70において案内されるため、フード天面リブ90を撤去してもよい。

#### 【0024】

##### (カバーフランジ)

カバーフランジ120は、オスコネクタハウジング320の外郭に略同じ略円弧状部分を具備する馬蹄形であって、オスコネクタハウジング320の端面324に当接するカバーフランジ端面121と、カバーフランジ端面121における対向した側縁(X方向の側縁および-Y方向の側縁)にそれぞれ設けられたカバー係止部130とを具備している。

カバー係止部130は、オスコネクタハウジング320の位置決め溝321に侵入して、同じく位置決め溝321に侵入しているメスコネクタハウジング310の位置決め突起311に係止する。

すなわち、カバー係止部130は、カバーフランジ端面121に垂直な(Y-Z面に平行な)カバー係止垂直部分131と、カバー係止垂直部分131の先端に連続して、カバーフランジ端面121に平行な(X-Z面に平行な)カバー係止平行部分132とを具備している。そして、カバーフランジ端面121、カバー係止垂直部分131およびカバー係止平行部分132の三者によって3方が包囲された空間に、メスコネクタハウジング310の位置決め突起311が侵入した状態になる(図9参照)。

#### 【0025】

##### (結束バンド)

図8は本発明の実施の形態1に係るコネクタのワイヤカバーを説明するものであって、取り付けられる結束バンドを示す斜視図である。なお、説明の便宜上、図1において定義した装着時の方向(X方向、Y方向、Z方向)を付記する。

図8において、結束バンド400は、可撓性を具備するバンド部410と、結束孔421が形成されたヘッド部420とを具備している。バンド部410には断面鋸歯状の凹凸(図示しない)が形成され、結束孔421には前記凹凸に係止して一方の方向に向かう移動を拘束する爪状の突起(図示しない)が形成されているから、バンド部410は、ヘッド部420とは反対側の先端から結束孔421に挿入可能であるものの、一旦挿入した後は、抜け出し不可能になる。

なお、バンド部410は図示しない爪状の突起における断面が、幅W(Z方向)および厚さT(X方向またはY方向)を具備する矩形になっている。

#### 【0026】

##### (結束バンドの取り付け状態)

図9~図13は本発明の実施の形態1に係るコネクタのワイヤカバーを説明するものであって、図9は結束バンドの取り付け状態を示す平面図、図10は結束バンドの取り付け状態を示す側面図、図11は結束バンドの取り付け状態を示す一部を拡大した斜視図、図12は結束バンドの取り付け状態(30極)における一部を拡大して示す正面図、図13は結束バンドの取り付け状態(41極)における一部を拡大して示す正面図である。なお、説明の便宜上、図1において定義した装着時の方向(X方向、Y方向、Z方向)を付記する。

図 9 ~ 図 13 において、コネクタ 300 にワイヤカバー 100 が装着され、ワイヤカバー 100 からワイヤ引き出し方向 101 に引き出されたワイヤ 210 が、結束バンド 400 によってワイヤカバー 100 に固定されている。

【0027】

メスコネクタハウジング 310 はオスコネクタハウジング 320 に収納され、前者の係止突起 313 が後者の係止孔 323 に係止し、前者の位置決め突起 311 が後者の位置決め溝 321 に侵入している。すなわち、メスコネクタハウジング 310 とオスコネクタハウジング 320 とは一体になっている。

そして、ワイヤカバー 100 のカバーフランジ端面 121 はオスコネクタハウジング 320 の端面 324 に当接し、カバー係止部 130 は、オスコネクタハウジング 320 の位置決め溝 321 に侵入している。このとき、カバーフランジ端面 121、カバー係止垂直部分 131 およびカバー係止平行部分 132 の三者によって 3 方が包囲された空間に、メスコネクタハウジング 310 の位置決め突起 311 は位置し、カバー係止部 130 は図示しない固定手段によって位置決め突起 311 に、抜け出し不可能に固定されている。

【0028】

また、コネクタ端子 200 のワイヤ 210 は、メスコネクタハウジング 310 から一旦 Y 方向に引き出された後、フード後斜面 40 またはフード天面 30 においてワイヤ引き出し方向 101 側（-Z 方向）に曲げられ（図示しない）、フード第 1 側面 10、フード天面 30 およびフード第 2 側面 20 によって案内され、ワイヤ引き出し開口面 60 からワイヤ引き出し方向 101 に引き出されている。

そして、結束バンド 400 を構成するバンド部 410 は、フード側面切欠溝 70 およびフード天面リブ 90 に案内され、フード欠損面 80 を通過した状態で、ワイヤ 210 をワイヤカバー 100 に固定している。このとき、結束バンド 400 を構成するヘッド部 420 は、フード第 1 側面 10 のフード側面切欠溝 70 の周囲に押し当てられ、バンド部 410 は締め上げられている。

【0029】

（作用効果）

（a）前記のように、結束バンド 400 は、バンド部 410 がフード側面切欠溝 70 およびフード天面リブ 90 に案内された状態で、フード欠損面 80 を通過している。すなわち、フード 110 にはバンド部 410 を挿入するための挿通孔（特許文献 1 参照）に相当する孔がなく、バンド部 410 をフード 110 に巻き付けるだけで、取り付けることができるから、作業が容易で迅速になる。

（b）さらに、結束バンド 400 は、バンド部 410 がフード側面切欠溝 70 およびフード天面リブ 90 に案内されてズレが防止され、かつ、ヘッド部 420 はフード第 1 側面 10 のフード側面切欠溝 70 の周囲に押し当てられた安定した状態で、結束バンド 400 は締め上げられる。したがって、結束バンド 400 の結束作業は安定になって、結束バンド 400 は十分に締め上げられ、ワイヤ 210 はワイヤカバー 100 に確実に固定される。

（c）また、バンド部 410 は可撓性を具備し、フード欠損面 80 を通過可能であるから、引き出されるワイヤ 210 の本数に左右されることなく、ワイヤ 210 をワイヤカバー 100 に固定することができる。すなわち、ワイヤ 210 の本数が少ない場合（例えば 30 極）、バンド部 410 は正面視で略三角形を呈し（図 12 参照）、ワイヤ 210 の本数が多い場合（例えば 41 極）、バンド部 410 は正面視で略台形を呈し（図 13 参照）、それぞれの場合においてバンド部 410 を確実に締め上げることができる。

（d）さらに、フード欠損面 80 を構成するフード天面欠損部分 83 の欠損範囲は、フード第 2 稜線 32 の一部を含み、フード第 2 側面 20 からフード第 1 側面 10 方向に距離 E の範囲であって、距離 E はバンド部 410 の厚さ T よりも大きい（ $E > T$ ）。したがって、結束バンド 400 がワイヤ 210 をワイヤカバー 100 に固定した状態で、バンド部 410 はフード欠損面 80 を通過して、フード第 2 側面 20 からフード第 1 側面 10 寄りの位置に納まり、フード第 2 側面 20 からフード第 1 側面 10 とは反対の方向（-X 方向

10

20

30

40

50



）に突出することがない。このため、フード第２側面２０に沿って、突出した物のない空間が形成される。

#### 【００３０】

##### （使用状態）

図１４～図１６は本発明の実施の形態１に係るコネクタのワイヤカバーを説明するものであって、図１４は使用状態を示す平面図、図１５は使用状態を示す側面図、図１６は使用状態を示す斜視図である。なお、説明の便宜上、図１において定義した装着時の方向（Ｘ方向、Ｙ方向、Ｚ方向）を付記する。

図１４～図１６において、コネクタ３００は自動車のオートマチックトランスミッションケース（以下「Ａ／Ｍ」と称す）５００に取り付けられている。なお、図１４～図１６では、Ａ／Ｍ５００の一部を矩形板にて模式的に示している。

すなわち、コネクタ３００は、Ａ／Ｍ５００に設けられた設置用孔５３０を貫通し、図示しない固定手段によってＡ／Ｍ５００に固定されている。そして、コネクタ３００にワイヤカバー１００が装着され、結束バンド４００がワイヤ２１０をワイヤカバー１００に固定している。

#### 【００３１】

このとき、前記のように、容易な作業によって、ワイヤ引き出し方向１０１に引き出されたワイヤ２１０は結束バンド４００によってワイヤカバー１００に確実に固定されている。したがって、引き出されたワイヤ２１０と、Ａ／Ｍ５００のコネクタ３００の周囲に配置された機器や部材（以下「周辺他部品９００」と称す）との干渉が防止される。

さらに、バンド部４１０はフード欠損面８０を通過して、フード第２側面２０の外側に突出しないから、フード第２側面２０に沿って突出した物のない空間（図１４において模式的に破線にて囲んで示す。以下「周辺空間９１０」と称す）が形成されている。したがって、周辺空間９１０に周辺他部品９００を配置することが可能になるため、周辺他部品９００を配置する自由度が増す。

#### 【００３２】

##### 〔実施の形態２〕

さらに、発明を実施するための形態（以下「実施の形態２」と称す）を、図面を参照しつつ説明する。なお、実施の形態１と同じ部位または相当する部位については同じ名称および同じ符号を付し、一部の説明を省略する。

図１７および図１８は本発明の実施の形態２に係るコネクタのワイヤカバーを説明するものであって、図１７は平面図、図１８は変形例を示す斜視図である。

#### 【００３３】

図１７において、コネクタのワイヤカバー（以下「ワイヤカバー」と称す）６００は、実施の形態１に示すワイヤカバー１００におけるフード天面リブ９０を撤去して、代わりに、フード天面欠損部分８３にフード天面切欠溝８４を設けたものである。

すなわち、フード天面３０のコネクタ対向開口面５０とは反対側の面には突出した部材がない。

そして、フード天面欠損部分８３には、フード天面先端縁３６からフード後斜面４０方向（Ｚ方向）に距離Ｆの位置から幅Ｇで、フード天面欠損側縁３９からフード側面欠損部分８２に向かって（－Ｘ方向に向かって）矩形状のフード天面切欠溝８４が形成されている。つまり、フード天面３０は、フード天面先端縁３６に沿って幅Ｆの範囲がフード側面欠損部分８２に向かって延長されている。

#### 【００３４】

したがって、かかる延長部分を「フード天面延長部分８５」と、フード天面延長部分８５のフード天面先端縁３６に垂直な縁を「フード天面延長側縁８６」とそれぞれ称すと、フード天面切欠溝８４はフード天面欠損部分８３からフード天面延長部分８５を除いた範囲である。なお、フード天面延長側縁８６はフード第２稜線３２を含む仮想面内に位置することがある。

また、フード天面切欠溝８４の底を示すフード天面先端縁３６に垂直な縁は、フード天

10

20

30

40

50

面欠損側縁 39 であるから、フード天面切欠溝 84 の実質的な深さ H は、フード天面欠損側縁 39 とフード天面延長側縁 86 との距離に同じであって、結束バンド 400 のバンド部 410 が - Z 方向に移動不可能に係止するように設定されている。

#### 【0035】

(作用効果)

したがって、フード天面切欠溝 84 は、ワイヤカバー 100 (実施の形態 1) におけるフード天面リブ 90 と同様にバンド部 410 を案内するから、ワイヤカバー 600 は、ワイヤカバー 100 と同様に前記作用効果 (a) ~ (d) を奏すると共に、フード天面リブ 90 に相当する部位を具備しないから、フード天面 30 のコネクタ対向開口面 50 とは反対の方向には、突出した物のない空間が形成される。

10

#### 【0036】

(変形例)

図 18 において、フード天面延長部分 85 はフード側面欠損部分 82 内にまで延長され、フード側面欠損部分 82 に、フード天面切欠溝 84 に連続したフード第 2 側面切欠溝 87 が形成されている。

このとき、フード天面延長部分 85 は、フード第 1 稜線 31 を含む仮想面に位置する範囲と、フード第 2 側面 20 を含む仮想面に位置する範囲とを有している。すなわち、フード第 2 側面切欠溝 87 はフード側面欠損部分 82 からフード天面延長部分 85 のフード第 2 側面 20 を含む仮想面に位置する範囲を除いた範囲である。

なお、フード天面延長側縁 86 はフード第 2 側面側縁 25 (フード第 2 側面 20 のコネクタ対向開口面 50 側の側縁に同じ) を含む仮想線上に位置していなくてもよい。

20

#### 【産業上の利用可能性】

#### 【0037】

以上のように、本発明に係るコネクタのワイヤカバーは、結束バンドの結束作業が安定になってワイヤを確実に固定することができるから、可撓性を有する各種索体や各種管体の各種装置からの引き出し方向を規制するカバーとして広く利用することができる。

#### 【符号の説明】

#### 【0038】

10 : フード第 1 側面

15 : フード第 1 側面側縁

16 : フード第 1 側面先端縁

20 : フード第 2 側面

25 : フード第 2 側面側縁

28 : フード第 2 側面欠損端縁

30 : フード天面

31 : フード第 1 稜線

32 : フード第 2 稜線

34 : フード後稜線

36 : フード天面先端縁

38 : フード天面欠損端縁

39 : フード天面欠損側縁

40 : フード後斜面

50 : コネクタ対向開口面

60 : ワイヤ引き出し開口面

70 : フード側面切欠溝

80 : フード欠損面

82 : フード側面欠損部分

83 : フード天面欠損部分

84 : フード天面切欠溝

85 : フード天面延長部分

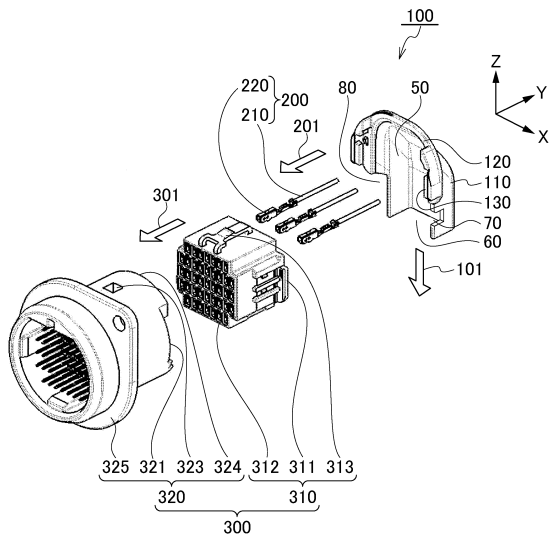
30

40

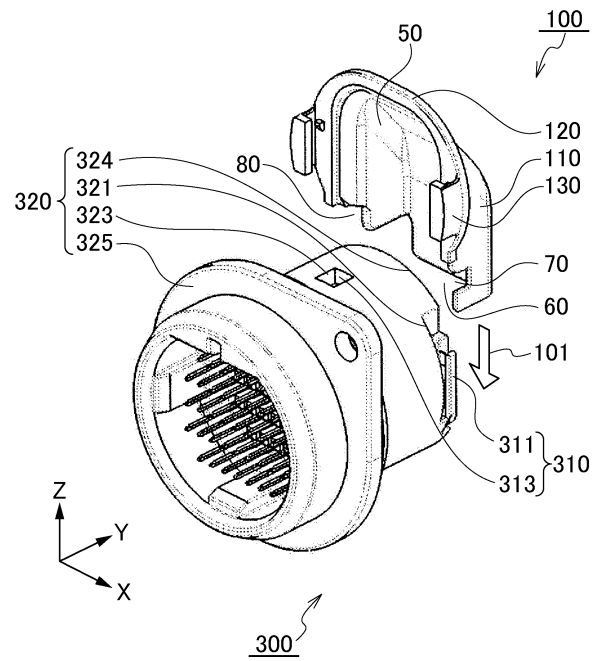
50

8 6 : フード天面延長側縁	
8 7 : フード第 2 側面切欠溝	
9 0 : フード天面リブ	
9 1 : 先寄りフード天面リブ	
9 2 : 後寄りフード天面リブ	
1 0 0 : コネクタのワイヤカバー (ワイヤカバー、実施の形態 1 )	
1 0 1 : ワイヤ引き出し方向	
1 1 0 : フード	
1 2 0 : カバーフランジ	
1 2 1 : カバーフランジ端面	10
1 3 0 : カバー係止部	
1 3 1 : カバー係止垂直部分	
1 3 2 : カバー係止平行部分	
2 0 0 : コネクタ端子	
2 0 1 : コネクタ端子挿入方向	
2 1 0 : ワイヤ	
2 2 0 : 圧着端子	
3 0 0 : コネクタ	
3 0 1 :ハウジング挿入方向	
3 1 0 : メスコネクタハウジング	20
3 1 1 : 位置決め突起	
3 1 2 : コネクタ端子収納室	
3 1 3 : 係止突起	
3 2 0 : オスコネクタハウジング	
3 2 1 : 位置決め溝	
3 2 3 : 係止孔	
3 2 4 : 端面	
3 2 5 : オスコネクタフランジ	
4 0 0 : 結束バンド	
4 1 0 : バンド部	30
4 2 0 : ヘッド部	
4 2 1 : 結束孔	
5 0 0 : オートマチックトランスミッションケース ( A / M )	
5 3 0 : 設置用孔	
6 0 0 : コネクタのワイヤカバー (ワイヤカバー、実施の形態 2 )	
9 0 0 : 周辺他部品	
9 1 0 : 周辺空間	

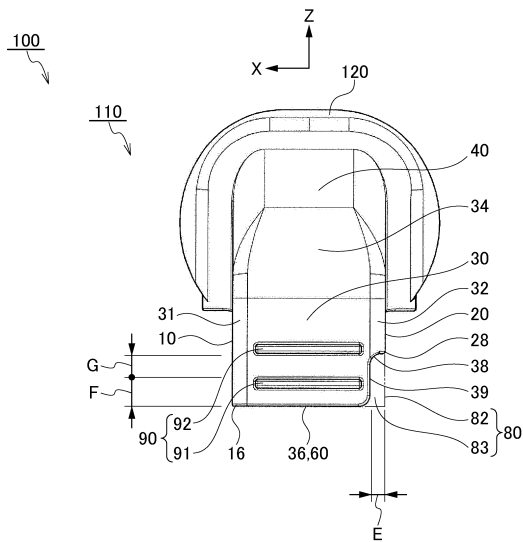
【図 1】



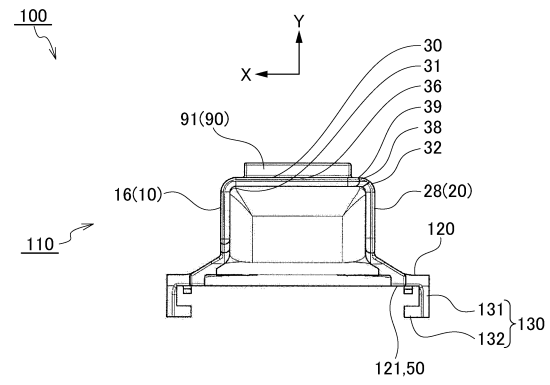
【図 2】



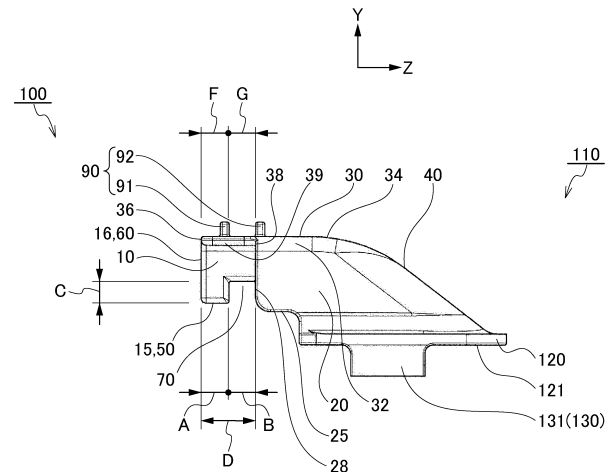
【図 3】



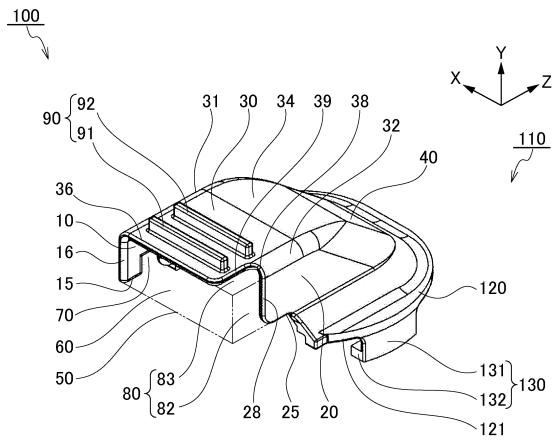
【図 4】



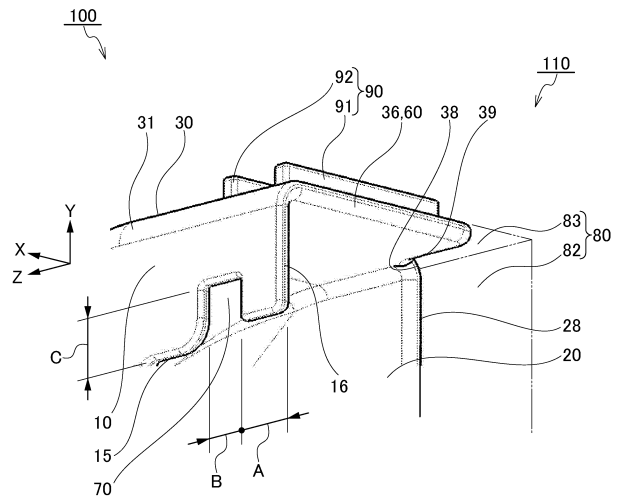
【図 5】



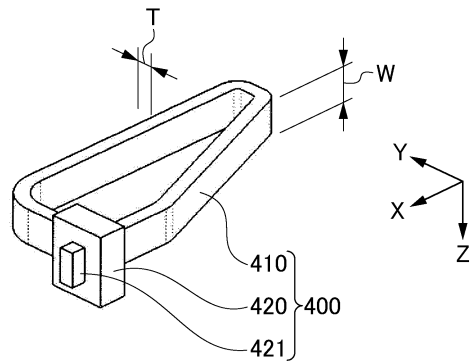
【図 6】



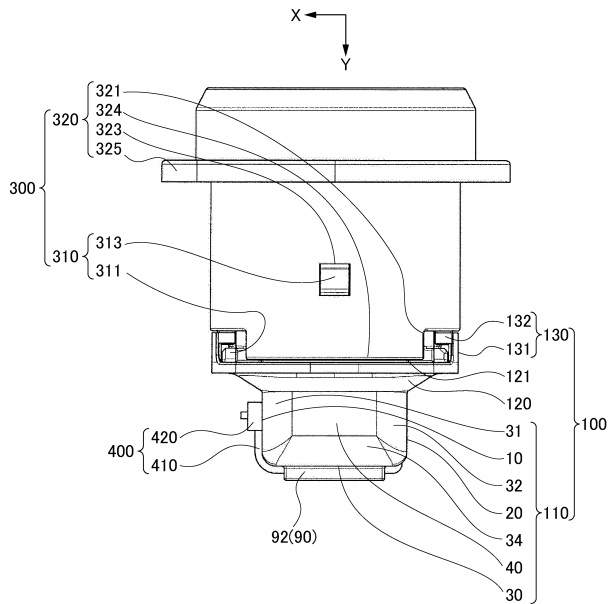
【図 7】



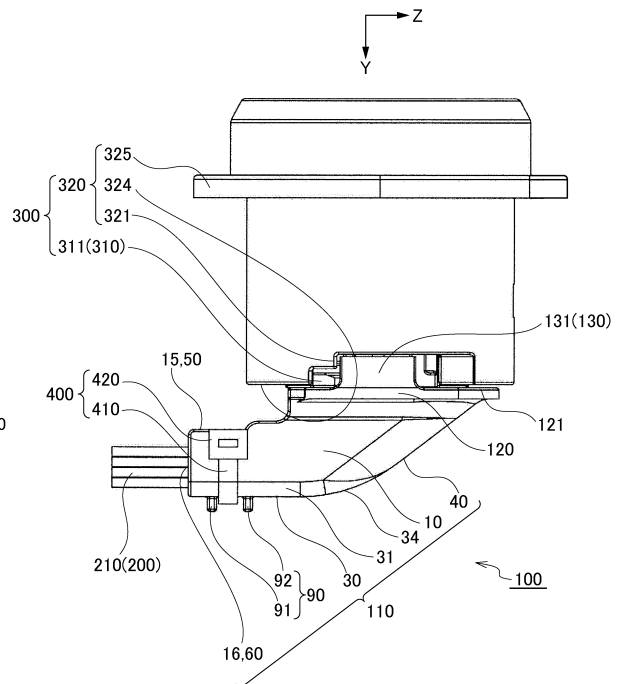
【図 8】



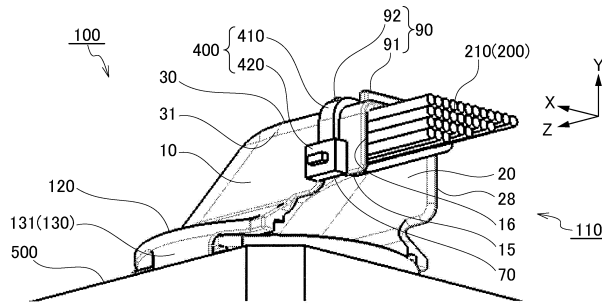
【図 9】



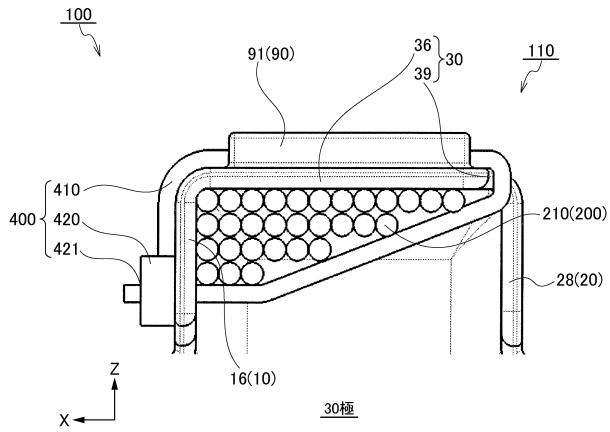
【図 10】



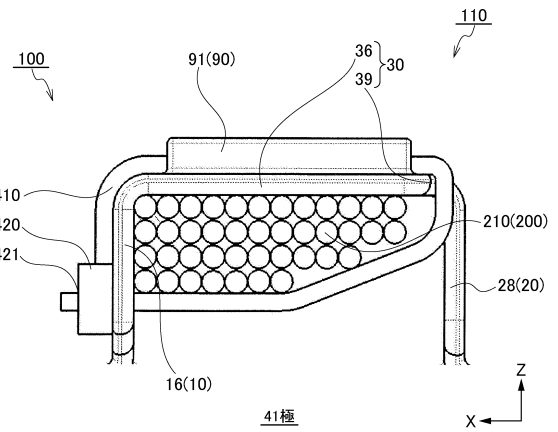
【図 1 1】



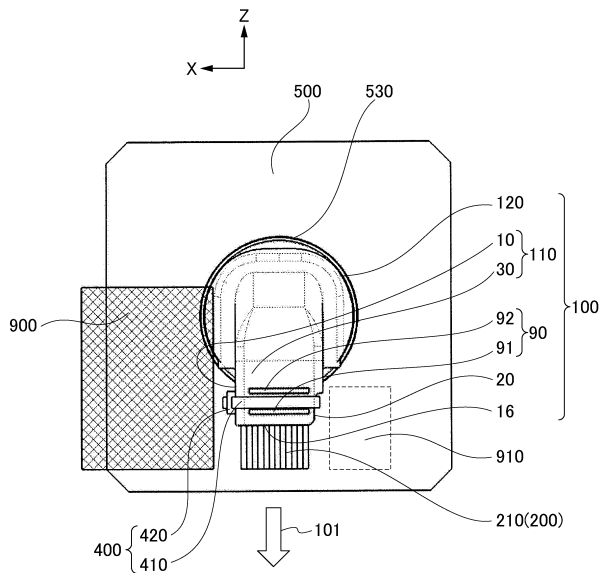
【図 1 2】



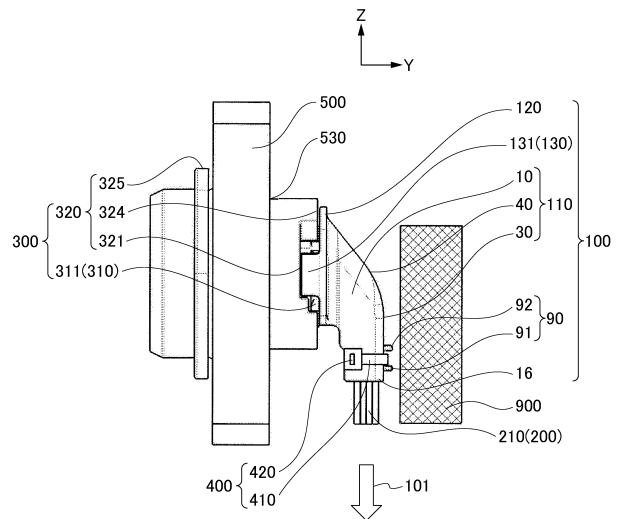
【図 1 3】



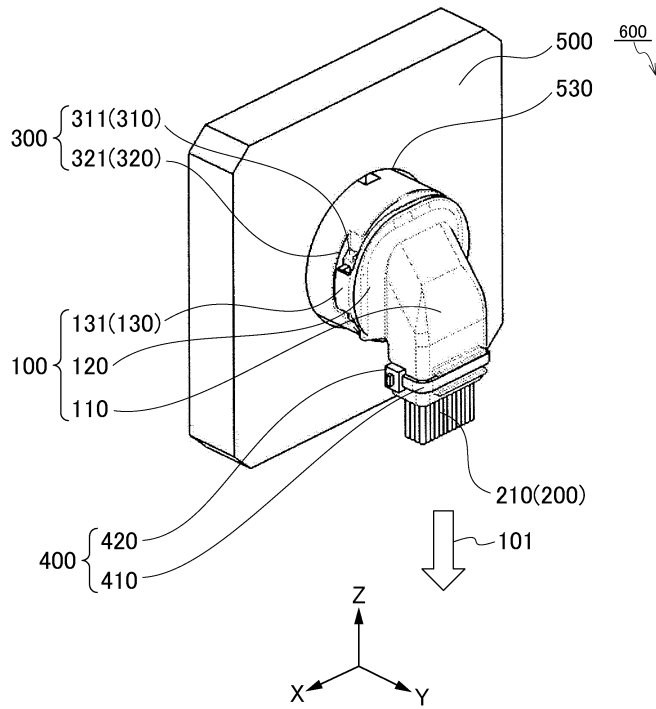
【図 1 4】



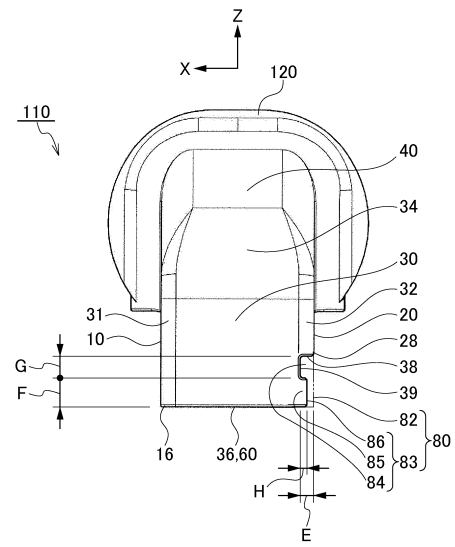
【図 1 5】



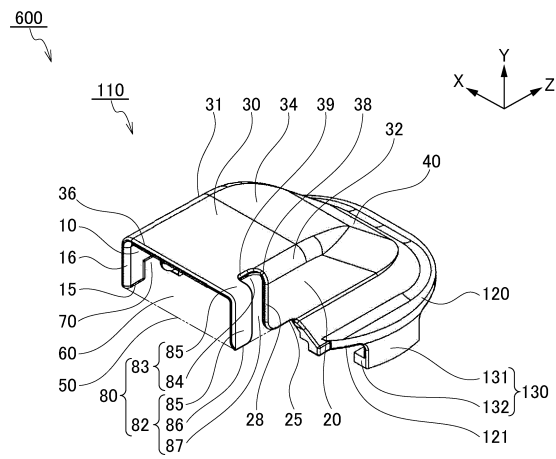
【図 16】



【図 17】



【図 18】



---

フロントページの続き

- (72)発明者 加藤 晃央  
愛知県安城市藤井町高根 10 番地 アイシン・エイ・ダブリュ株式会社内
- (72)発明者 日野田 祐介  
愛知県安城市藤井町高根 10 番地 アイシン・エイ・ダブリュ株式会社内

審査官 板澤 敏明

- (56)参考文献 特開 2012 - 028011 (JP, A)  
特開 2010 - 055863 (JP, A)  
特開平 11 - 086957 (JP, A)  
登録実用新案第 3154848 (JP, U)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
- |      |         |
|------|---------|
| H01R | 13 / 58 |
| H02G | 3 / 04  |